

Mate

省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型
(Windows Meインストールモデル)
(Windows 98インストールモデル)

はじめに

お読みください

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
梱包箱を開けたら、まず本書の手順通り操作してください。

なお本書に記載のイラストや画面はモデルにより多少異なります。また、実際の画面とは多少異なることがあります。

操作の流れ

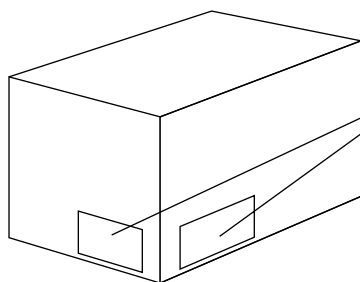
- 1** 添付品の確認 2
不足しているものや、破損しているものがないかを最初に確認します。
- 2** 設置場所の決定 13
設置する場所を決めます。
- 3** 添付品の接続
使い始めるのに必要な機器を接続します。本体の型を見て、本書の各型のページをご覧ください。接続する前には必ず添付の『安全にお使いいただくために』をお読みください。
省スペース型の場合 15
デスクトップ型の場合 27
ミニタワー型の場合 34
- 4** Windowsのセットアップ 43
はじめて電源を入れるときには、Windowsをセットアップします。
- 5** お客様登録 49
お客様の登録をします。
- 6** マニュアルの使用方法 50
添付されているマニュアルの使い方について説明しています。
- 7** 使用する環境の設定と上手な使い方 54
使用する環境や運用、管理する上で便利な機能を設定します。

1

添付品の確認

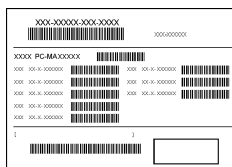
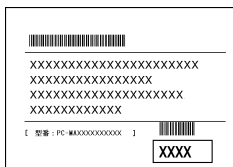
型番を控える

梱包箱のステッカーに記載されている15桁の型番(以降、スマートセクション型番と呼びます)またはフリーセクション型番(フレーム型番とコンフィグオプション型番)を、このマニュアルに控えておきます。型番は添付品の確認や、再セットアップをするときに必要になりますので、必ず控えておくようにしてください。



ステッカー
(ステッカーは梱包箱側面
2カ所に同じ物が貼りつけ
られています)

フリーセクション型番の場合は、型番を控えておかないと、梱包箱をなくした場合に再セットアップに必要な情報が手元に残りません。



左が「スマートセクション型番」、右が「フリーセクション型番」のステッカーです。

スマートセクション型番のステッカーの場合は、「スマートセクション型番を控える」へ、フリーセクション型番のステッカーの場合は、P.6「フリーセクション型番を控える」へ進んでください。

スマートセクション型番を控える

スマートセクション型番を控えめす。控え終わったら、P.10「添付品を確認する」へ進んでください。

① スマートセクション型番を次の枠に控える

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX

型番: PC-MAXXXXXXXX

XXXX

スマートセクション型番

PC-MA 7

□の意味は次の通りです。

CPUのクロック周波数を表しています。

✓	型 番	クロック周波数
	10	1.0 GHz
	15	1.5 GHz
	66	667 MHz
	80	800EB MHz
	86	866 MHz

CPUの種類を表しています。

✓	型 番	CPUの種類
	H	インテル® Celeron™ プロセッサ
	S	Pentium® 4 プロセッサ
	T	Pentium® III プロセッサ

本体の型を表しています。

✓	型 番	本体の型
	C、LまたはZ	省スペース型
	M	ミニタワー型
	S	デスクトップ型

ディスプレイのあるなし、または種類を表しています。

✓	型 番	ディスプレイの種類
	5	DV15A3
	9	FE90
	D	DV17D2
	E	F18S1W
	G	F15S32
	H	F14T41W
	L	F15T2W
	N	F15R42W
	R	F15T42
	Y	F14T52
	Z	な し

選択アプリケーションのあるなし、または種類を表しています。

✓	型 番	選択アプリケーションの種類
	5またはT	な し
	6またはD	Office 2000 Personal
	7またはY	Office 2000 Professional
	8またはU	一太郎 10・花子10パック & 1-2-3 2000

FDDまたはSDDおよび、CD-ROMまたはCD-R/RWのあるなし、キーボードの種類を表しています。

✓	型 番	FDDまたはSDD	CD-ROMまたは CD-R/RW	キーボードの種類
	1	FDD	CD-R/RW	テンキー付き PS/2 小型キーボード
	2	SDD	CD-R/RW	テンキー付き PS/2 小型キーボード
	3	な し	な し	テンキー付き PS/2 小型キーボード
	4	な し	な し	PS/2 109キーボード
	5	な し	な し	USB小型キーボード
	6	FDD	CD-R/RW	PS/2 109キーボード
	7	FDD	CD-R/RW	USB小型キーボード
	8	FDD	CD-R/RW	USB98配列キーボード
	9	な し	な し	USB98配列キーボード
	B	FDD	CD-R/RW	USB109キーボード
	D	SDD	CD-R/RW	USB109キーボード
	E	SDD	CD-R/RW	USB小型キーボード
	F	SDD	CD-R/RW	PS/2 109キーボード
	G	SDD	CD-R/RW	USB98配列キーボード
	H	FDD	CD-ROM	USB小型キーボード
	L	SDD	CD-ROM	USB 109キーボード
	M	FDD	CD-ROM	USB 109キーボード
	S	SDD	CD-ROM	USB98配列キーボード
	T	FDD	CD-ROM	PS/2 109キーボード
	U	SDD	CD-ROM	PS/2 109キーボード
	V	FDD	CD-ROM	USB98配列キーボード
	W	SDD	CD-ROM	USB小型キーボード
	X	FDD	CD-ROM	テンキー付き PS/2 小型キーボード
	Y	SDD	CD-ROM	テンキー付き PS/2 小型キーボード
	Z	な し	な し	USB109キーボード

メモリの容量、ネットワークボードの種類、エネルギースターの対応または未対応を表しています。

✓	型番	メモリ容量	ネットワークボードの種類	エネルギースター
	3	192MB	LANボード	未対応
	4		FAXモデムボード	
	5	512MB	LANボード	未対応
	6		FAXモデムボード	
	B	64MB	LANボード	未対応
	D	128MB		
	E	256MB		
	G	64MB		対応
	H	128MB		
	J	256MB		
	M	512MB	FAXモデムボード	対応
	N	64MB		
	R	128MB		
	S	256MB		
	U	64MB		未対応
	W	128MB		
	X	512MB		
	Y	256MB		未対応

ハードディスクドライブの容量、筐体アクセントカラーの種類を表しています。

✓	型 番	ハードディスクドライブ容量	筐体アクセントカラーの種類 注意
	F	20GB	ブラック
	G	30GB	
	J	60GB	
	L	20GB	レッド
	M	30GB	
	N	60GB	
	R	20GB	ブルー
	S	30GB	
	T	60GB	
	U	20GB	ホワイト
	V	30GB	
	W	60GB	

注意 筐体アクセントカラーの種類は、省スペース型に設定されたメニューです。デスクトップ型、ミニタワー型には設定されていません。

上記の ~ のすべての組み合わせが実現できているわけではありません。

次にP.10「添付品を確認する」に進んでください。

フリーセクション型番を控える

フレーム型番とコンフィグオプション型番を控えます。控え終わったら、P.10「添付品を確認する」へ進んでください。

① フレーム型番を次のチェック表にチェックする

フレーム型番

PC-MA Z 7

☐ の意味は次の通りです。

CPUのクロック周波数を表しています。

✓	型 番	クロック周波数
	10	1.0 GHz
	15	1.5 GHz
	66	667 MHz
	80	800EB MHz
	86	866 MHz

CPUの種類を表しています。

✓	型 番	CPUの種類
	H	インテル® Celeron™ プロセッサ
	S	Pentium® 4 プロセッサ
	T	Pentium® III プロセッサ

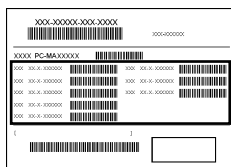
本体の型を表しています。

✓	型 番	本体の型
	C、LまたはZ	省スペース型
	M	ミニタワー型
	S	デスクトップ型

インストールOSの種類を表しています。

✓	型 番	インストールOSの種類
	5	Windows Me
	T	Windows 98

② コンフィグオプション型番を次のチェック表にチェックする



コンフィグオプション型番

次のコンフィグオプション(以降、COPと略します)型番のうち、～
 はどのモデルにも必須でステッカーには必ず記載されています(選
 択必須COP)。～ は選択したモデルやオプションによってステッ
 カーに記載されます(選択必須COPおよび任意選択COP)。また、ス
 テッカーに記載されているCOP型番は順不同になっています。
 COP型番に記載されている英数字の意味は次の通りです。

PC-M-KB□□□3はキーボードの種類を表しています。(選択必須
 COP)

✓	型 番	キーボードの種類
	10S	テンキー付PS/2小型キーボード
	98U	USB 98配列キーボード
	PS2	PS/2 109キーボード
	SMU	USB 小型キーボード
	USB	USB 109キーボード

PC-M-1H□□□4は内蔵3.5インチベイに搭載されるハードディ
 スクドライブ(プライマリマスタ)の容量を表しています。(選択必
 須COP)

✓	型 番	ハードディスクドライブ容量
	020	20GB
	030	30GB
	060	60GB

PC-M-ME□□□4はメモリの種類と容量を表しています。(選択必
 須COP)

✓	型 番	メモリの種類と容量
	N06	SDRAM 64MB
	N12	SDRAM 128MB
	N19	SDRAM 192MB
	N25	SDRAM 256MB
	N51	SDRAM 512MB
	R06	RDRAM 64MB(ECC)
	R10	RDRAM 1.0GB(ECC)
	R12	RDRAM 128MB(ECC)

✓	型 番	メモリの種類と容量
	R13	RDRAM 128MB(64MB × 2)(ECC)
	R19	RDRAM 192MB(ECC)
	R25	RDRAM 256MB(ECC)
	R26	RDRAM 256MB(128MB × 2)(ECC)
	R51	RDRAM 512MB(ECC)

PC-M-CD□□□□は5インチベイに搭載されるファイルベイ用内蔵機器(セカンダリマスタ)の種類を表しています。(MA66H/Zはなし、その他の機種は選択必須COP)

✓	型 番	ファイルベイ用内蔵機器の種類
	CDD2	CD-ROM
	CDR4	CD-R/RW

PC-M-FD□□□□は3.5インチベイに搭載されるファイルベイ用内蔵機器の種類を表しています。(MA66H/Z以外の省スペース型は選択必須COP、その他はなし)

✓	型 番	ファイルベイ用内蔵機器の種類
	FDD1	FDD
	SDD2	SDD

PC-M-NE□□□4はネットワークボードの種類、エネルギースターまたは未対応を表しています。(選択必須COP)

✓	型 番	ネットワークボードの種類	エネルギースター
	LAE	LAN (OFF State Alert 機能あり)	対応
	LAH	LAN (OFF State Alert 機能なし)	未対応
	LAN	LAN (OFF State Alert 機能あり)	
	LAR	LAN (OFF State Alert 機能なし)	対応
	MDE	FAXモデムボード	対応
	MDM		未対応

PC-M-AC□□□2は筐体アクセントカラーの種類を表しています。(省スペース型は選択必須COP、その他はなし)

✓	型 番	筐体アクセントカラーの種類
	BLK	ブラック
	BLU	ブルー
	MWH	ホワイト
	RED	レッド

DV□□□□、F□□□□□□□はディスプレイの種類を表しています。(任意選択COP)

✓	型 番	ディスプレイの種類
	DV15A3	DV15A3
	DV17D2	DV17D2
	F14T41W-M	F14T41W-M 注意
	F14T52	F14T52
	F15R42W	F15R42W
	F15S32	F15S32
	F15T2W-M	F15T2W-M 注意
	F15T42	F15T42
	F18S1W-M	F18S1W-M 注意
	FE90-M	FE90-M 注意

注意 ディスプレイの箱、ディスプレイの保証書、ディスプレイの銘板、ディスプレイ添付のマニュアルにはF14T41W、F15T2W、F18S1W、FE90と書かれていますが、F14T41WはF14T41W-Mと、F15T2WはF15T2W-Mと、F18S1WはF18S1W-Mと、FE90はFE90-Mと同じ商品です。

PC-M-AP□□□□は選択アプリケーションの種類を表しています。(任意選択COP)

✓	型 番	選択アプリケーションの種類
	JST2	一太郎10・花子10バック & 1-2-3 2000
	MSW2	Office 2000 Personal
	MSW3	Office 2000 Professional

PC-M-ES□□□1はESMPROを表しています。(任意選択COP)

✓	型 番	ESMPRO
	ESM	ESMPRO

PC-M-SC□□□2はSCSIボードを表しています。(任意選択COP)

✓	型 番	SCSIボード
	UWS	Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)

PC-M-2H□□□4は内蔵3.5インチベイに搭載される追加ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)の容量を表しています。(任意選択COP)

✓	型 番	追加ハードディスクドライブ容量
	020	20GB(2ndHDD)
	030	30GB(2ndHDD)
	060	60GB(2ndHDD)

添付品を確認する

梱包箱を開けたら、まず添付品が揃っているかどうか、このチェックリストを見ながら確認してください。万一、添付品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにご購入元にご連絡ください。

梱包箱や添付品収納箱には、下記の他にも注意書きの紙などが入っている場合があります。

① 箱の中身を確認する

P.3 ①またはP.6 ①、P.7 ②の型番を参照すると、よりわかりやすくなります。

- ☐ 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
保証書は、ご購入元で所定事項をご記入の上、お受け取りになり、保管してください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容にもとづいて修理いたします。保証期間後の修理については、ご購入元またはNECにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。詳しくは、保証書をご覧ください。
- ☐ はじめにお読みください(このマニュアルです)
- ☐ 本体(ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まないMateを指します)
- ☐ 添付品収納箱
- ☐ キーボード
- ☐ マウス

1つにバックされています。



☐ 選択アプリケーション

Office 2000 Personal^{*1}、Office 2000 Professional^{*2}、一太郎10・花子10バック^{*3} & 1-2-3 2000、およびESMPRO^{*4}
箱の中身は、選択アプリケーションの箱の中にあるマニュアルをご覧ください。
(P.4①-、またはP.9②、で選択アプリケーションの種類がわかります)

^{*1} Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)

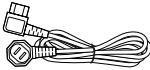
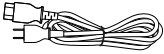
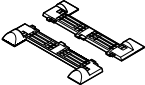
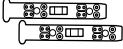
^{*2} Microsoft® Office 2000 Professional(Microsoft Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft PowerPoint® 2000、Microsoft Access 2000、Microsoft Publisher 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)

^{*3} 一太郎10・花子10バック/R.2(一太郎10/R.2、花子10/R.2、三四郎9/R.2、ATOK13/R.2)

^{*4} ESMPRO/ClientManager Ver 2.1/Ver 3.0/Ver 3.1/Ver 3.2、DeliveryManager Ver 4.0/Ver 4.1/Ver 5.0 /Ver 5.2/Ver 6.0/Ver 6.2(ライセンスFD)

② 添付品収納箱の中身を確認する

☐ は、各々1つにパックされています。

☐ アース線 	省スペース型の場合添付 ☐ サービスコンセント付 電源ケーブル 	省スペース型の場合添付 ☐ ケーブルストッパ  ☐ ネット(1個)
デスクトップ型・ミニタワー型の場合添付 ☐ 電源ケーブル 		
省スペース型の場合添付 ☐ スタビライザ(2個)  ☐ スタビライザ取り 付け用ネット(2個)	デスクトップ型の場合添付 ☐ 5インチベイ ガイドレール(2枚)  ☐ ネット(4個)	☐ セキュリティプレート  ☐ ネット(1個)
ネットワークボードの種類がFAXモデムの場合添付 ☐ モジュラーケーブル 		
Windows Meの場合添付 マニュアル ☐ お客様登録申込書 ☐ 安全にお使いいただくために ☐ 活用ガイド 再セットアップ編 (Windows Meインストールモデル) ☐ NEC PCあんしんサポートガイド		
Windows 98の場合添付 マニュアル ☐ お客様登録申込書 ☐ 安全にお使いいただくために ☐ 活用ガイド 再セットアップ編 (Windows 98インストールモデル) ☐ NEC PCあんしんサポートガイド		

Windows Meの場合添付



☐ Microsoft® Windows® Meクイックスタートガイド

Windows 98の場合添付



☐ Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド



- ☐ ソフトウェアのご使用条件
(箱の中身を確認後必ずお読みください)
- ☐ ソフトウェア使用条件適用一覧
(箱の中身を確認後必ずお読みください)
- ☐ システムインストールディスク(FD)
- ☐ バックアップCD-ROM
- ☐ アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM

ファイルベイ用内蔵機器の種類がCD-R/RWの場合添付



☐ Easy CD Creator™ 4 Standard/
Direct CD™ 3 CD-ROM

③ ディスプレイがセットになったモデルの場合、ディスプレイの箱の中身については、ディスプレイの箱の中のマニュアルで確認する

(P.3 ① またはP.9 ② で、ディスプレイのあるなし、種類がわかります)

④ 本体にある型番、製造番号と保証書の型番、製造番号が一致していることを確認する

PC-MA XXX...XX

万一違っているときは、すぐにご購入元に連絡してください。また保証書は大切に保管しておいてください。

なお、フリーセクション型番の場合は、フレーム型番のみが表示されています。

以上で添付品の確認は完了です。

次のペ - ジの「 2 設置場所の決定 」へ進んでください。

2

設置場所の決定

設置場所を決める



安全に関するご注意

添付の『安全にお使いいただくために』をよくお読みの上、注意事項を守って正しくお使いください。



感電注意

- 電源はAC100V(50/60Hz)を使用してください。



発火注意

- 電源ケーブルの上に、ものを載せないでください。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- 電源ケーブルの付け根部分を無理に曲げないでください。



けが注意

- ケーブル類は、つまずかないように整理してください。



設置に適した場所

設置に適した場所は次のような場所です。

屋内

温度10 ～ 35

湿度20% ～ 80%

(ただし結露しないこと)

平らで十分な強度があり、落下のおそれがない

(机の上など)

✕ 設置に適さない場所

次のような場所には設置しないでください。本機(本体とキーボードなどを含んだMateを指します。)の故障や破損の原因となります。

磁気を発生するもの(扇風機、スピーカなど)や磁気を帯びているものの近く

直射日光が当たる場所

暖房機の近く

薬品や液体の近く

腐食性ガス(オゾンガスなど)が発生する場所

テレビ、ラジオ、コードレス電話、他のディスプレイなどの近く

人通りが多くてぶつかる可能性がある場所

ドアの開け閉めで、ドアが当たる場所

ホコリが多い場所

本体背面または側面にある通風孔がふさがる場所

ディスプレイの通風孔がふさがる場所

テレビ、ラジオなどと同じACコンセントを使う場所

設置場所が決まったら……

設置する場所が決まったら、本機の設置と添付品の接続を行うため、次の点を確認してください。

本機は精密機器ですから、慎重に取り扱ってください。乱暴な取り扱いをすると、故障や破損の原因となります。

本体およびディスプレイの接続部は、背面にまとまっています。いきなり壁際に本体およびディスプレイを置いてしまうと、うまく接続できません。机などの裏側に回って接続できるような場所を選んでください。

通風孔をふさがないようにできるだけ15cm以上のスペースを確保してください。また、キーボードやマウスが余裕を持って操作できる場所も必要です。

本機を移動するときは……

本機に接続しているすべてのケーブル(電源ケーブル、アース線など)を取り外してください。本機を持ち上げるときは、左右から手を入れて底面を持ってください。また移動中に、壁などにぶついたりすると故障や破損の原因となりますので、大切に取り扱いってください。

以上で設置場所の決定は完了です。

次のページの「**3** 添付品の接続」へ進んでください。

3

添付品の接続

接続するときの注意

- ・ 添付品の接続をするときは、コネクタの端子に触れない故障の原因となります。
- ・ Windows Meインストールモデルに別売のディスプレイを接続する場合は、800×600ドット以上の解像度のディスプレイを接続するWindows Meのセットアップが、800×600ドットの解像度で表示されるためです。ディスプレイがセットになったモデルであれば問題ありません。

デスクトップ型の場合はP.27をご覧ください。

ミニタワー型の場合はP.34をご覧ください。

省スペース型の場合

スタビライザをセットする

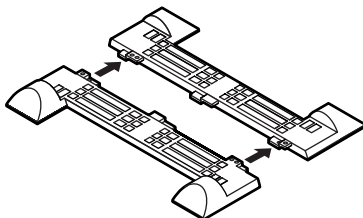
本機には、本体を縦置きで使用する場合に、安定して設置するためのスタビライザと言う脚が添付されています。梱包箱から出したままの状態では、スタビライザは本体に取り付けられていません。縦置きで使用する場合は、転倒防止のため、必ず次のようにスタビライザをスタビライザ取り付け用ネジで取り付けて設置してください。

また、本体を横置きで使用することもできます。この場合、スタビライザをセットする必要はありません。横置きで使用する場合は、ゴム足がある方を下にして設置してください。また、本体の上に約20kgまでのディスプレイなどを置くことができます。

① スタビライザを2つ取り付ける場合

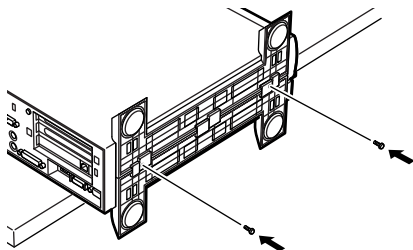
机の端などに本体を横置きにし、本体を安定させる

2つのスタビライザを次のようにかみ合わせる



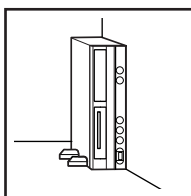
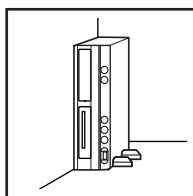
本体底面の突起にスタビライザを合わせて、スタビライザ取り付け用ネジ2個を使い取り付ける

本体を横にするとときは、机やテーブルなどを傷つけないように、厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。



② スタビライザを1つ取り付ける場合

次のように、片側を壁などに付けて縦置きで使用する場合は、壁などと反対側の側面のみにスタビライザを1つ取り付けることで設置することができます。

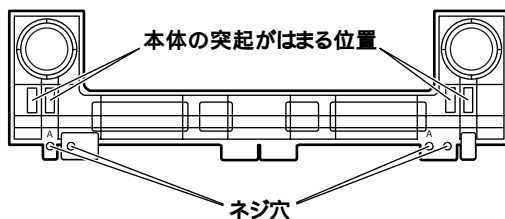


注意

1つのスタビライザのみをセットする場合は、転倒防止のため、必ず反対側の側面を壁などにつけて使用してください。

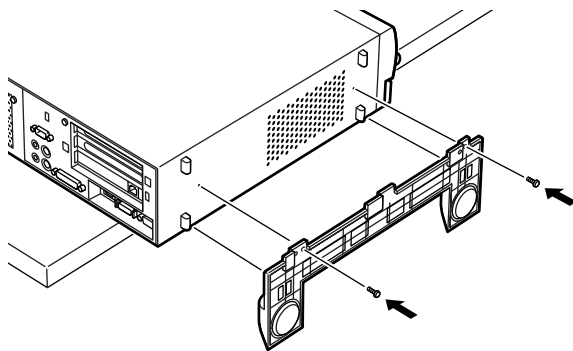
机の端などに本体を横置きにし、本体を安定させる

本体底面の突起がはまる位置と、ネジ穴の場所を確認する

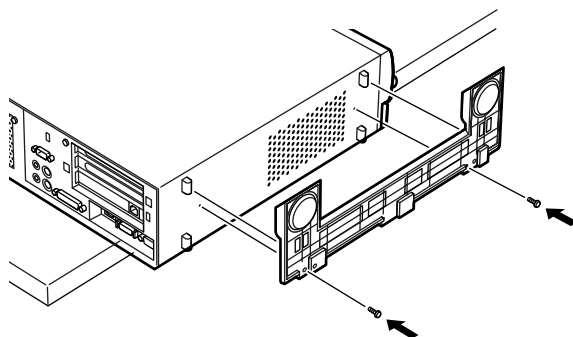


1つのスタビライザを、スタビライザ取り付け用ネジ2個を使い取り付ける

■ 本体の右側にセットする場合



■ 本体の左側にセットする場合



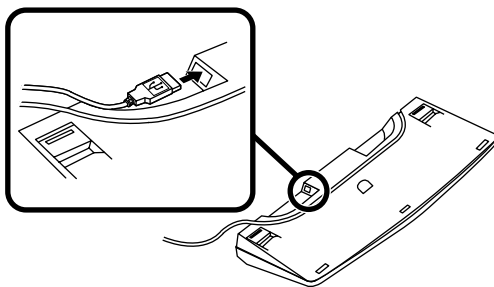
添付品を接続する

1. マウス、キーボードを接続する

お使いのキーボードにより❶または❷のどちらかで接続してください。

❶USB接続のキーボードを接続する場合(ここではUSB 109キーボードを例に説明します)

添付のマウスのUSBコネクタをアイコンの向きをあわせてキーボードのUSBコネクタに接続する

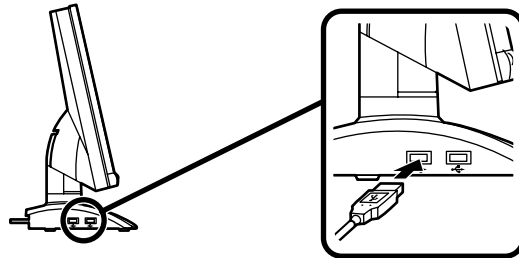


キーボードを液晶ディスプレイ、または本体のUSBコネクタに接続する

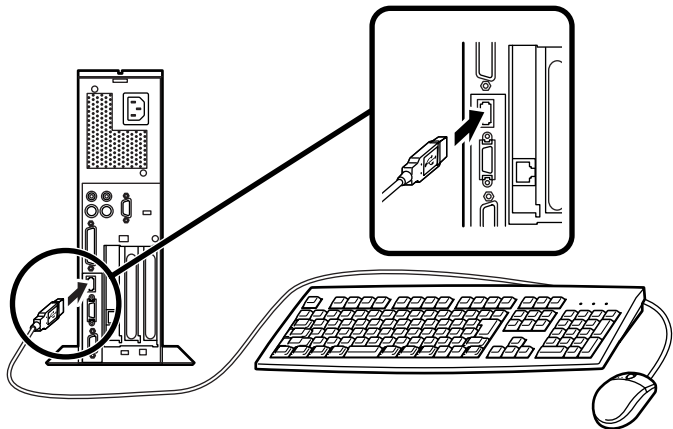
■ 液晶ディスプレイに接続する場合

ここではディスプレイ(F18S1W)がセットになった場合を例に説明します。

液晶ディスプレイの側面にある2つのUSBコネクタの、どちらを使用しても構いません。



■ 本体(背面)に接続する場合



ケーブルストッパを利用すると、キーボードの盗難やケーブルの抜け防止に役立ちます。

ケーブルストッパの使い方は、『ハードウェア拡張ガイド 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』PART2 周辺機器を利用する(省スペース型)の「ケーブルストッパの取り付け/取り外し」をご覧ください。

■ 本体(正面)に接続する場合

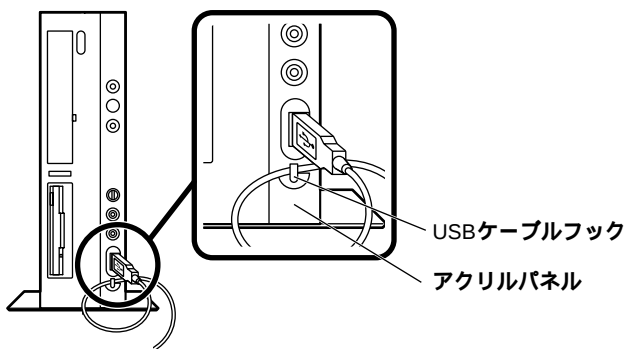
USBケーブルフックにキーボードのケーブルを引っ掛けてから、USBコネクタに接続する

USBケーブルフックを利用すると、USBコネクタの抜け防止に役立ちます。



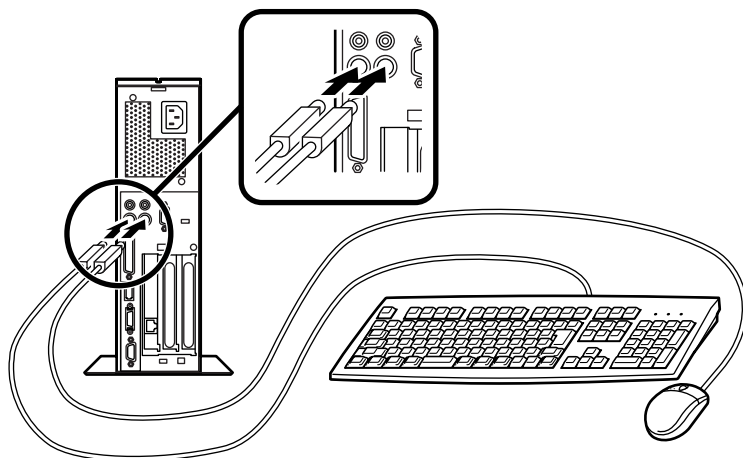
注意

アクリルパネルやUSBケーブルフックは、誤ってキーボードのケーブルを強く引くと過度の力がかかり、破損する場合があります。



②PS/2接続のキーボードを接続する場合(ここではPS/2 109キーボードを例に説明します)

添付のマウス(緑)・キーボード(紫)を同色のコネクタにそれぞれ接続する



ケーブルストッパを利用すると、盗難・抜け防止に役立ちます。ケーブルストッパの使い方は、『ハードウェア拡張ガイド 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』PART2 周辺機器を利用する(省スペース型)の「ケーブルストッパの取り付け/取り外し」をご覧ください。

2. ディスプレイを接続する

お使いのディスプレイにより、次の①または②のどちらかの方法で接続してください。

ディスプレイは、本体とセットになったモデルと別売のモデルがあり、接続方法が異なる場合があります。ディスプレイに添付のマニュアルを参照しながら接続してください。

①アナログ液晶ディスプレイ、またはCRTディスプレイを接続する場合

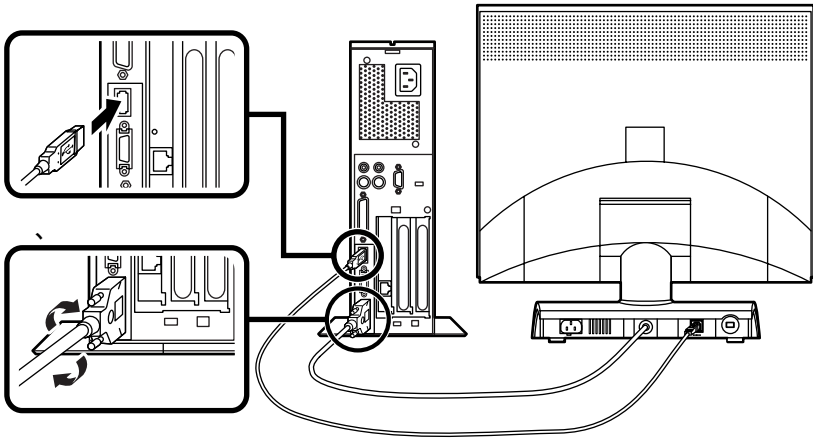
ここではディスプレイ(F18S1W)がセットになった場合を例に説明します。

ディスプレイの背面につながっているビデオ信号ケーブルのコネクタを、アイコン()とコネクタの形状を確認し、本体のアナログRGBコネクタに接続する

ビデオ信号ケーブルのコネクタに付いているネジで、しっかりネジ止めする

アナログ液晶ディスプレイの場合は、さらに、本体とアナログ液晶ディスプレイをUSBケーブルで接続する

液晶ディスプレイのUSBケーブルは、本体背面のUSBコネクタに接続することをおすすめします。



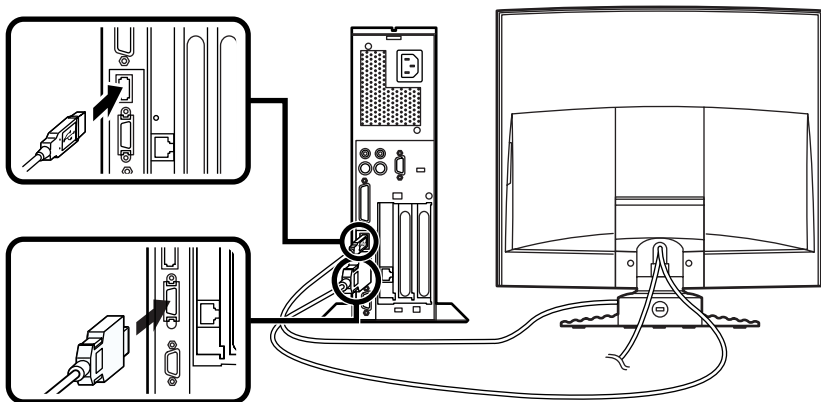
② デジタル液晶ディスプレイを接続する場合

ここではディスプレイ(F14T52)がセットになった場合を例に説明します。

ディスプレイの背面につながつているビデオ信号ケーブルのコネクタを、アイコン()とコネクタの形状を確認し、本体のデジタルRGBコネクタに接続する

このとき、ビデオ信号ケーブルのコネクタを本体のデジタルRGBコネクタに確実にロックされるまで手で押し込んでください。

本体とデジタル液晶ディスプレイをUSBケーブルで接続する
液晶ディスプレイのUSBケーブルは、本体背面のUSBコネクタに
接続することをおすすめします。



3. リンクケーブル(別売)またはモジュラーケーブルを接続する

必要に応じて次の接続を行ってください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するときは、リンクケーブル(別売)を使い、①の手順で接続します。

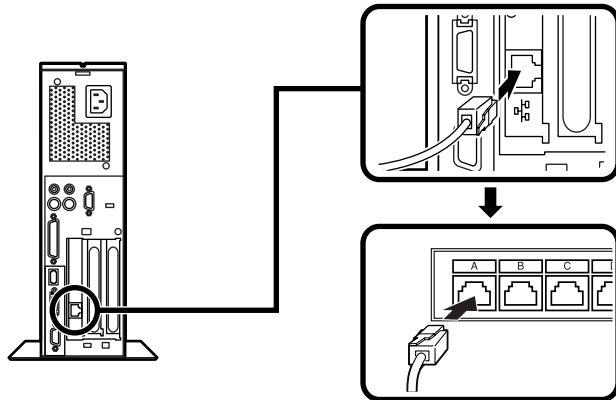
FAXモデムを利用して電話回線に接続するときは、モジュラーケーブルを使い、②の手順で接続します。

① リンクケーブル(別売)を接続する場合

稼働中のローカルエリアネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってリンクケーブルの接続を行ってください。

リンクケーブルのコネクタを本体のアイコン表示()に従って接続する

マルチポートリピータ(ハブ)に、リンクケーブルのもう一方のコネクタを接続する



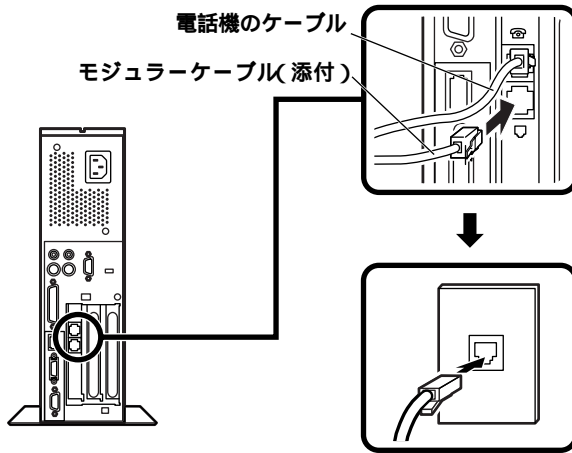
② モジュラーケーブルを接続する場合

- ・ 端末機器の設計についての認証(技術基準適合認定)は電話回線で受けています。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話回線は2線式のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。
- ・ FAXモデムボードの詳細については、セットアップ完了後に『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』「PART1 本体の構成各部」の「FAXモデムボード」をご覧ください。

電話機につながっているケーブルのコネクタを本体のアイコン表示(☎)に従って接続し、モジュラーケーブルの一方のコネクタを本体のアイコン表示(📠)に従って接続する

モジュラーコンセントに、モジュラーケーブルのもう一方のコネクターを接続する

本機を電話回線に接続しても、2線式の電話機はこれまで通り使うことができます。



4. アース線、電源ケーブルを接続する

安全に関するご注意

アース端子付きのコンセントがない場合、ご購入元や、お近くの電気店などにご相談ください。



- アース線は、絶対にガス管につながないでください。ガス爆発、火災の原因となります。



- アース線の接続や取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

アース線は、水道管につながないでください。アースできない場合があります。

アース線は、電話専用のアース端子に接続しないでください。電話に雑音が入る場合があります。

アース線は、感電を防止するための電線です。本体のアース端子と、コンセントのアース端子をつなぐことで、万一漏電した場合の感電を防止する役目を果たします。安全のために必ず接続してください。

本機に添付のサービスコンセント付電源ケーブルをご使用になる前に、下記の注意事項をよく読んでから接続してください。



- サービスコンセントには、ディスプレイの電源ケーブル以外は接続しないでください。サービスコンセントで供給できる電源の容量は3Aまでです。消費電力の大きな機器などに接続すると、火災の原因となります。



- サービスコンセントにテーブルタップを接続するなどのタコ足配線をしないでください。

次のページのイラストを見て①～③の順番に接続してください。

① アース線を接続する

本体のアース端子にアース線をネジ止める

コンセントのアース端子にアース線を接続する

② ディスプレイの電源ケーブルを接続する

次のページのイラストはアナログ液晶ディスプレイ(F18S1W)がセットになった場合です。ディスプレイによって接続方法が異なる場合があります。ディスプレイに添付のマニュアルを参照しながら接続してください。

ディスプレイにディスプレイ用電源ケーブルを接続する

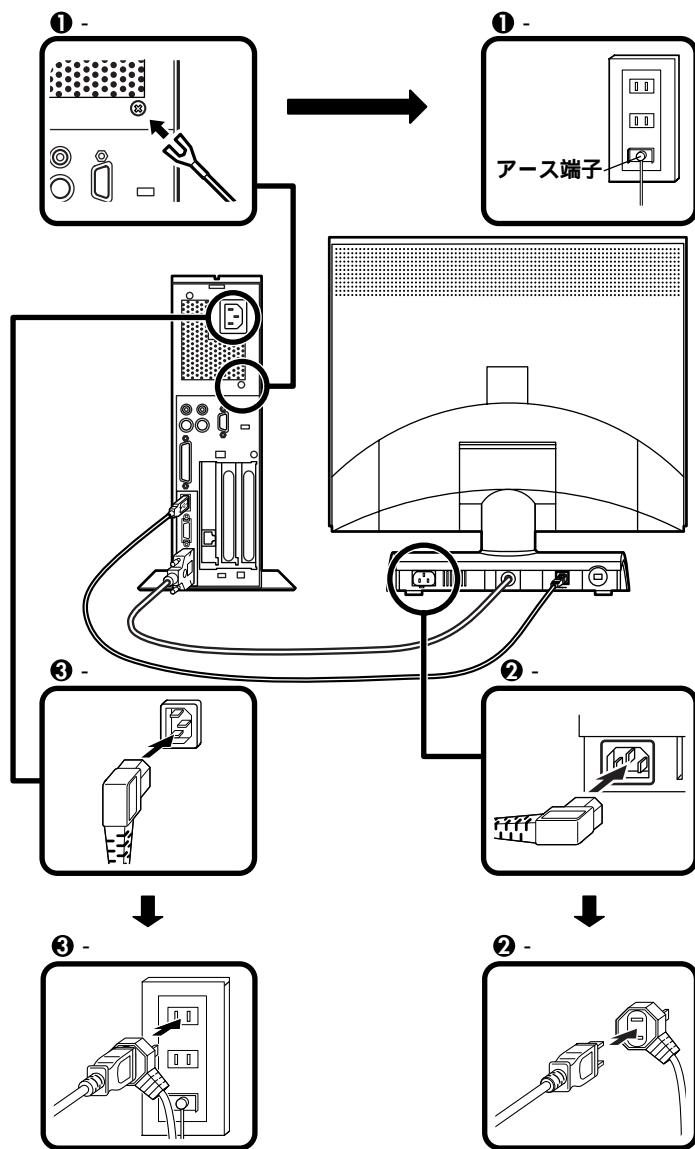
電源ケーブルのもう一方のプラグをサービスコンセントに差し込む

③ 本体の電源ケーブルを接続する

本体にサービスコンセント付き電源ケーブルを接続する

サービスコンセント付き電源ケーブルのもう一方のプラグを壁などのコンセントに差し込む

一度電源が入り、数秒で電源が切れます。（故障ではありません）



以上で添付品の接続は完了です。

P.43^F **4** Windowsのセットアップへ進んでください。

省スペース型の場合はP.15をご覧ください。
ミニタワー型の場合はP.34をご覧ください。

デスクトップ型の場合

本体のゴム足がある方を下にして設置してください。
本体には、約25kgまでのディスプレイなどをのせることができます。

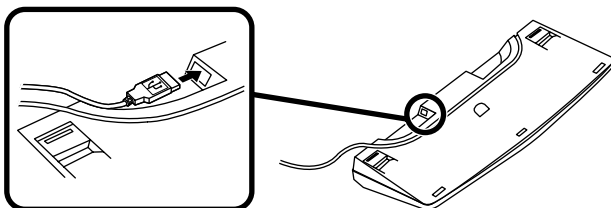
添付品を接続する

1. マウス、キーボードを接続する

お使いのキーボードにより、①または②のどちらかで接続してください。

①USB接続のキーボードを接続する場合(ここではUSB 109キーボードを例に説明します)

添付のマウスのUSBコネクタをアイコンの向きにあわせてキーボードに接続する

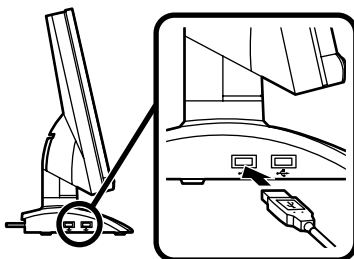


キーボードを液晶ディスプレイ、または本体のUSBコネクタに接続する

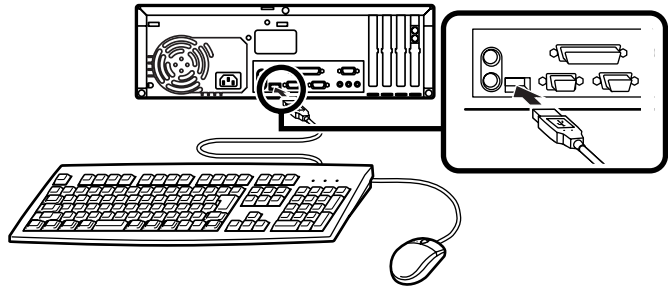
■ 液晶ディスプレイに接続する場合

ここではディスプレイ(F18S1W)がセットになった場合を例に説明します。

液晶ディスプレイの側面にあるUSBコネクタの、どちらを使用しても構いません。

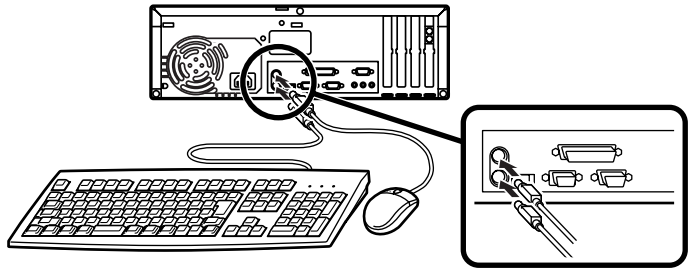


■ 本体(背面)に接続する場合



② PS/2接続のキーボードを接続する場合(ここではPS/2 109キーボードを例に説明します)

添付のマウス(緑)キーボード(紫)を同色のコネクタにそれぞれ接続する



2. ディスプレイを接続する

お使いのディスプレイにより、次の①または②のどちらかの方法で接続してください。

ディスプレイは、本体とセットになったモデルと別売のモデルがあり、接続方法が異なる場合があります。ディスプレイに添付のマニュアルを参照しながら接続してください。

① CRTディスプレイまたはアナログ液晶ディスプレイを接続する場合

ここではディスプレイ(DV17D2)がセットになった場合を例に説明します。

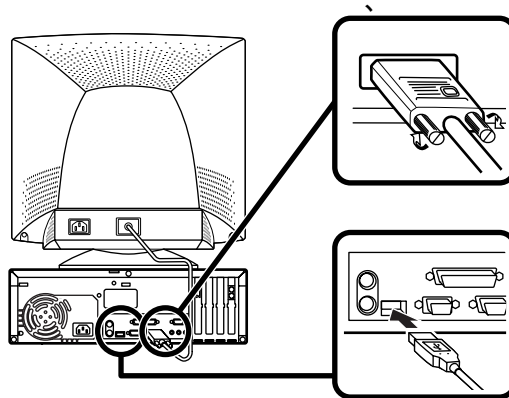
本体のアナログRGBコネクタの位置は、機種によって異なりますので、機種とアナログRGBコネクタの位置をよく確認してから接続してください。

ディスプレイの背面につながっているビデオ信号ケーブルのコネクタを、アイコン(□)とコネクタの形状を確認し、本体のアナログRGBコネクタに接続する

ビデオ信号ケーブルのコネクタに付いているネジで、しっかりネジ止めする

アナログ液晶ディスプレイの場合は、さらに本体とアナログ液晶ディスプレイをUSBケーブルで接続する

液晶ディスプレイのUSBケーブルは、本体背面のUSBコネクタに接続することをおすすめします。



② デジタル液晶ディスプレイを接続する場合

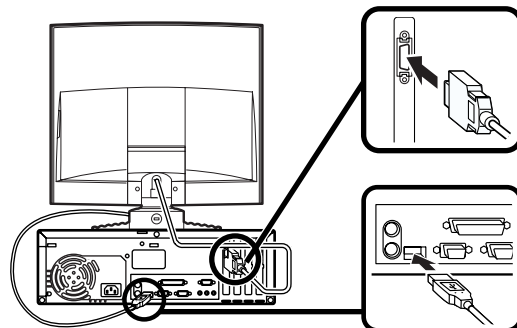
ここではディスプレイ(F14T52)がセットになった場合を例に説明します。

ディスプレイの背面につながつているビデオ信号ケーブルのコネクタを、アイコン()とコネクタの形状を確認し、本体のデジタルRGBコネクタに接続する

このとき、ビデオ信号ケーブルのコネクタを、本体のデジタルRGBコネクタに、確実にロックされるまで押し込んでください。

本体とデジタル液晶ディスプレイをUSBケーブルで接続する

液晶ディスプレイのUSBケーブルは、本体背面のUSBコネクタに接続することをおすすめします。



3. リンクケーブル(別売)またはモジュラーケーブルを接続する

必要に応じて次の接続を行ってください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するときは、リンクケーブル(別売)を使い、①の手順で接続します。

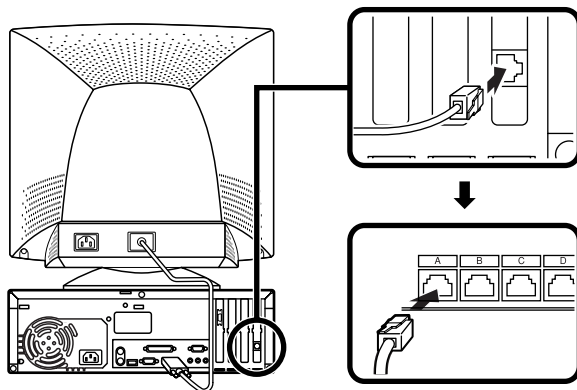
FAXモデムを利用して電話回線に接続するときは、モジュラーケーブルを使い、②の手順で接続します。

① リンクケーブル(別売)を接続する場合

稼働中のローカルエリアネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってリンクケーブルの接続を行ってください。

リンクケーブルのコネクタを本体のアイコン表示()に従って接続する

マルチポートリピータ(ハブ)に、リンクケーブルのもう一方のコネクタを接続する



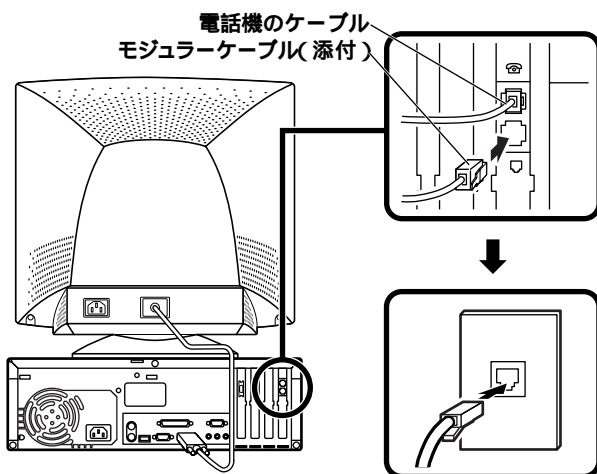
② モジュラーケーブルを接続する場合

- ・ 端末機器の設計についての認証(技術基準適合認定)は電話回線で受けています。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話回線は2線式のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。
- ・ FAXモデムボードの詳細については、セットアップ完了後に『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』『PART1 本体の構成各部』の「FAXモデムボード」をご覧ください。

電話機につながっているケーブルのコネクタを本体のアイコン表示()に従って接続し、モジュラーケーブルの一方のコネクタを、本体のアイコン表示()に従って接続する

モジュラーコンセントに、モジュラーケーブルのもう一方のコネクタを接続する

本機を電話回線に接続しても、2線式の電話機はこれまで通り使うことができます。



4. アース線、電源ケーブルを接続する

⚠ 安全に関するご注意

アース端子付きのコンセントがない場合、ご購入元や、お近くの電気店などにご相談ください。



発火注意

- アース線は、絶対にガス管につながないでください。ガス爆発、火災の原因となります。



感電注意

- アース線の接続や取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

アース線は、水道管につながないでください。アースできない場合があります。

アース線は、電話専用のアース端子に接続しないでください。電話に雑音が入る場合があります。

アース線は、感電を防止するための電線です。本体のアース端子と、コンセントのアース端子をつなぐことで、万一漏電した場合の感電を防止する役目を果たします。安全のために必ず接続してください。

次のページのイラストを見て、①～③の順番に接続してください。

① アース線を接続する

本体のアース端子にアース線をネジ止めする

コンセントのアース端子にアース線を接続する

② ディスプレイの電源ケーブルを接続する

次のページのイラストはCRTディスプレイ(DV17D2)がセットになった場合です。ディスプレイによって接続方法が異なる場合がありますので、ディスプレイに添付のマニュアルを参照しながら接続してください。

ディスプレイにディスプレイ用電源ケーブルを接続する

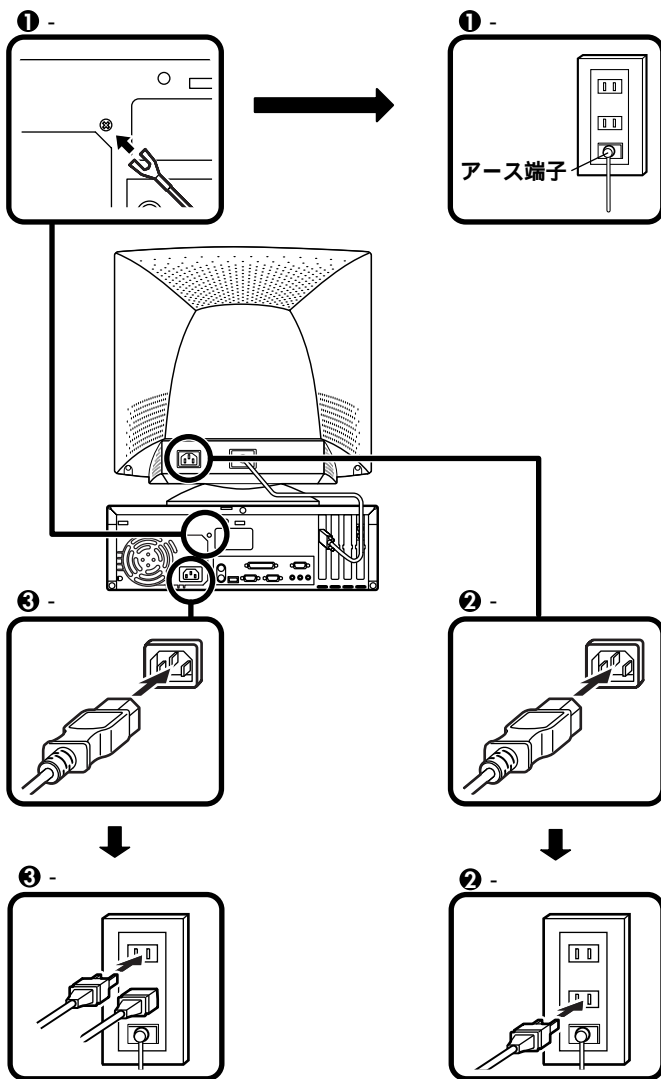
電源ケーブルのもう一方のプラグを壁などのコンセントに差し込む

③ 本体の電源ケーブルを接続する

本体に電源ケーブルを接続する

電源ケーブルのもう一方のプラグを壁などのコンセントに差し込む

一度電源が入り、数秒で電源が切れます。(故障ではありません)



以上で添付品の接続は完了です。

P.43「4 Windowsのセットアップ」へ進んでください。

省スペース型の場合はP.15をご覧ください。
デスクトップ型の場合はP.27をご覧ください。

ミニタワー型の場合

横置きにして使用する方へ...

本体を横置きで使用する場合は、ゴム足がある方を下にして設置してください。また、本体の上に約25kgまでのディスプレイなどをのせることができます。本体を横置きにして使用する場合、ファイルベイ用内蔵機器（CD-ROMなど）を入れ替えることで、利用しやすくなります。詳しくは、『ハードウェア拡張ガイド』PART4 周辺機器を利用する（ミニタワー型）「ファイルベイ用内蔵機器の取り外し/取り付け」「フロッピーディスク、CD-ROMなどを使いやすくする（横置きに適した向きの変更）」をご覧ください。

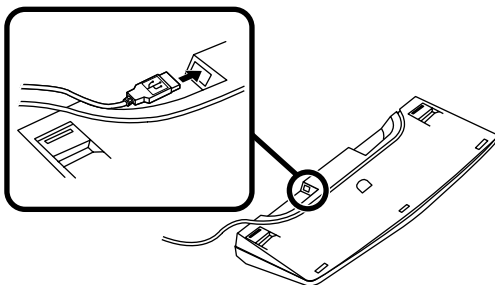
添付品を接続する

1. マウス、キーボードを接続する

お使いのキーボードにより、①または②のどちらかで接続してください。

①USB接続のキーボードを接続する場合（ここではUSB 109キーボードを例に説明します）

添付のマウスのUSBコネクタを、アイコンの向きをあわせてキーボードのUSBコネクタに接続する

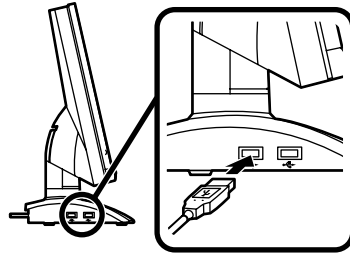


キーボードを液晶ディスプレイ、または本体のUSBコネクタに接続する

■ 液晶ディスプレイに接続する場合

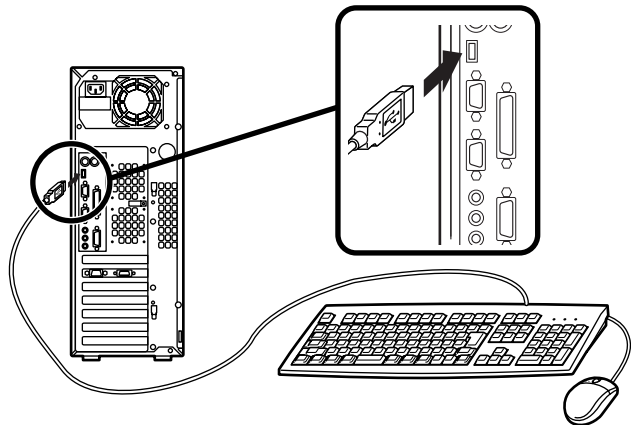
ここではディスプレイ(F18S1W)がセットになった場合を例に説明します。

液晶ディスプレイの側面にある2つのUSBコネクタの、どちらを使用しても構いません。



■ 本体(背面)に接続する場合

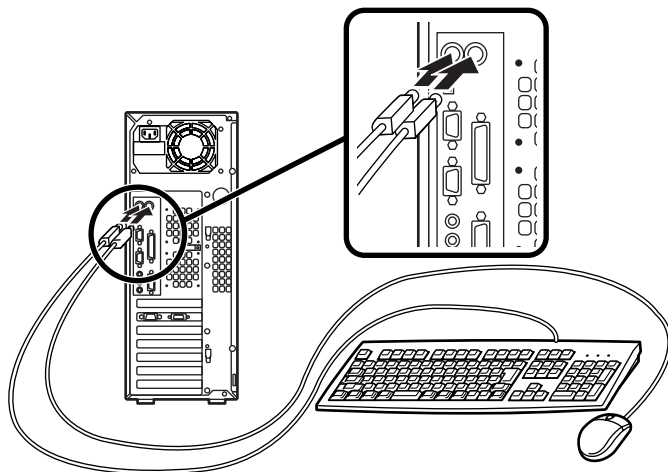
MA15S/Mの場合、背面にある2つのUSBコネクタの、どちらを使用しても構いません。



ケーブルストッパを利用すると、盗難・抜け防止に役立ちます。ケーブルストッパの使い方は、『ハードウェア拡張ガイド』「PART4 周辺機器を利用する(ミニタワー型)」の「ケーブルストッパの取り外し/取り付け」をご覧ください。

②PS/2接続のキーボードを接続する場合(ここではPS/2 109キーボードを例に説明します)

添付のマウス(緑)・キーボード(紫)を同色のコネクタにそれぞれ接続する



ケーブルストッパを利用すると、盗難・抜け防止に役立ちます。
ケーブルストッパの使い方は、『ハードウェア拡張ガイド』
「PART4周辺機器を利用する(ミニタワー型)」の「ケーブルス
トッパの取り外し/取り付け」をご覧ください。

2. ディスプレイを接続する

お使いのディスプレイにより、次の①または②のどちらかの方法で接続してください。

ディスプレイは、本体とセットになったモデルと別売のモデルがあり、接続方法が異なる場合があります。ディスプレイに添付のマニュアルを参照しながら接続してください。

①CRTディスプレイまたはアナログ液晶ディスプレイを接続する場合

ここではディスプレイ(DV17D2)がセットになった場合を例に説明します。

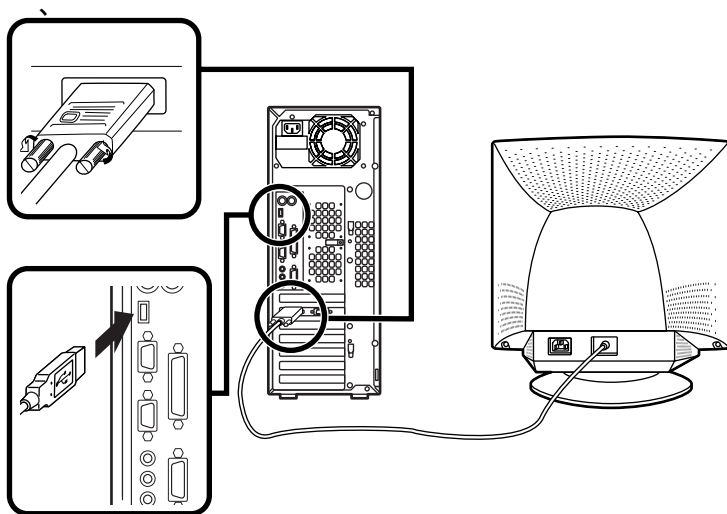
ディスプレイの背面につながっているビデオ信号ケーブルのコネクタを、アイコン()とコネクタの形状を確認し、本体のアナログRGBコネクタと接続する

ビデオ信号ケーブルのコネクタに付いているネジで、しっかりネジ止めする

アナログ液晶ディスプレイの場合は、さらに本体とアナログ液晶ディスプレイをUSBケーブルで接続する

液晶ディスプレイのUSBケーブルは、本体背面のUSBコネクタに接続することをおすすめします。

MA15S/Mの場合、背面にある2つのUSBコネクタの、どちらを使用しても構いません。



② デジタル液晶ディスプレイを接続する場合

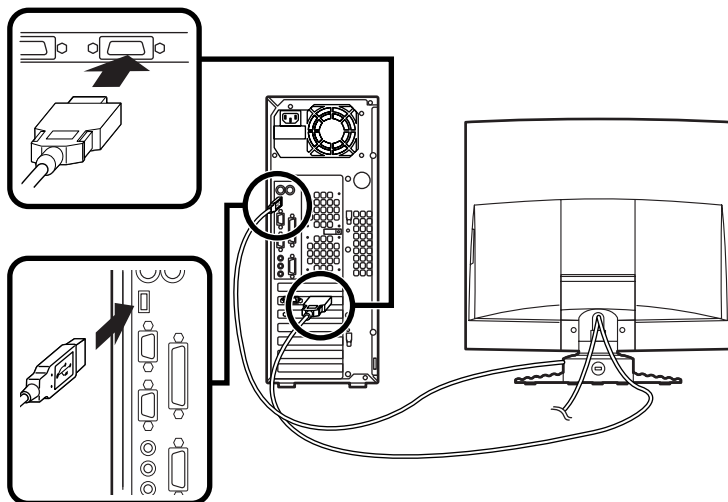
ここではディスプレイ(F14T52)がセットになった場合を例に説明します。

ディスプレイの背面につながっているビデオ信号ケーブルのコネクタを、アイコン()とコネクタの形状を確認し本体のデジタルRGBコネクタに接続する

このときビデオ信号ケーブルのコネクタを、本体のデジタルRGBコネクタに、確実にロックされるまで手で押し込んでください。

本体と液晶ディスプレイをUSBケーブルで接続する

液晶ディスプレイのUSBケーブルは、本体背面のUSBコネクタに接続することをおすすめします。



3. リンクケーブル(別売)またはモジュラーケーブルを接続する

必要に応じて次の接続を行ってください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するときは、リンクケーブル(別売)を使い、①の手順で接続します。

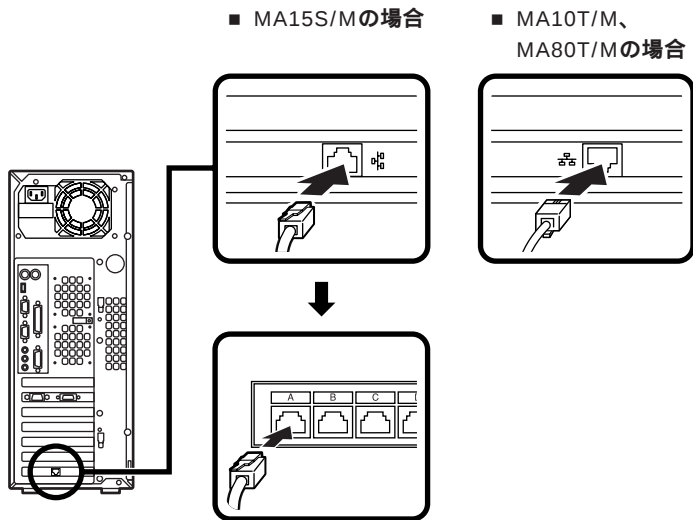
FAXモデムを利用して電話回線に接続するときは、モジュラーケーブルを使い、②の手順で接続します。

① リンクケーブル(別売)を接続する場合

稼働中のローカルエリアネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってリンクケーブルの接続を行ってください。

リンクケーブルのコネクタを本体のアイコン表示()に従って接続する

マルチポートリピータ(ハブ)に、リンクケーブルのもう一方のコネクタを接続する



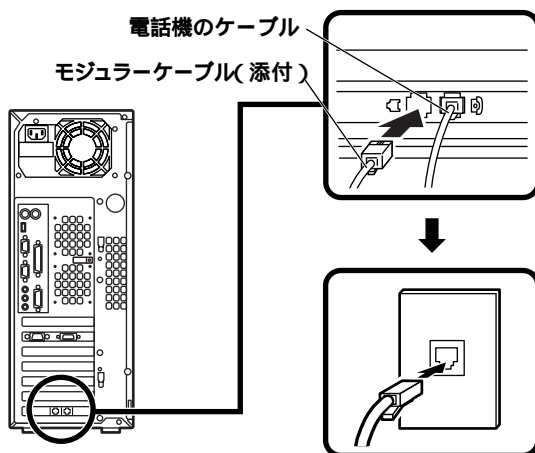
② モジュラーケーブルを接続する場合

- ・ 端末機器の設計についての認証(技術基準適合認定)は電話回線で受けています。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話回線は2線式のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。
- ・ FAXモデムボードの詳細については、セットアップ完了後に『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』『PART1 本体の構成各部』の「FAXモデムボード」をご覧ください。

電話機につながっているケーブルのコネクタを本体のアイコン表示(☎)に従って接続し、モジュラーケーブルの一方のコネクタを、本体のアイコン表示(☐)に従って接続する

モジュラーコンセントに、モジュラーケーブルのもう一方のコネクタを接続する

本機を電話回線に接続しても、2線式の電話機はこれまで通り使うことができます。



4. アース線、電源ケーブルを接続する

⚠ 安全に関するご注意

アース端子付きのコンセントがない場合、ご購入元や、お近くの電気店などにご相談ください。



- アース線は、絶対にガス管につながないでください。ガス爆発、火災の原因となります。



- アース線の接続や取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

アース線は、水道管につながないでください。アースできない場合があります。

アース線は、電話専用のアース端子に接続しないでください。電話に雑音が入る場合があります。

アース線は、感電を防止するための電線です。本体のアース端子と、コンセントのアース端子をつなぐことで、万一漏電した場合の感電を防止する役目を果たします。安全のために必ず接続してください。

次のページのイラストを見て①～③の順番に接続してください。

① アース線を接続する

本体のアース端子にアース線をネジ止めする

コンセントのアース端子にアース線を接続する

② ディスプレイの電源ケーブルを接続する

次のページのイラストはCRTディスプレイ(DV17D2)がセットになった場合です。ディスプレイによって接続方法が異なる場合があります。ディスプレイに添付のマニュアルを参照しながら接続してください。

ディスプレイにディスプレイ用電源ケーブルを接続する

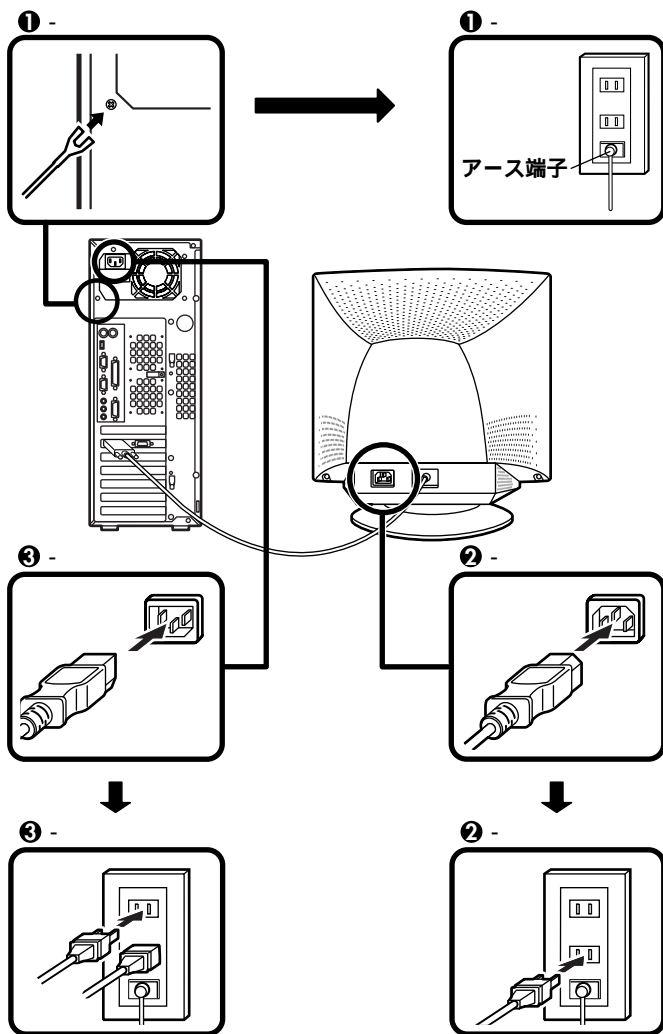
電源ケーブルのもう一方のプラグを壁などのコンセントに差し込む

③ 本体の電源ケーブルを接続する

本体に電源ケーブルを接続する

電源ケーブルのもう一方のプラグを壁などのコンセントに差し込む

一度電源が入り、数秒で電源が切れます。（故障ではありません）



以上で添付品の接続は完了です。
次のページの「**4** Windowsのセットアップ」へ進んでください。

4

Windowsのセットアップ

はじめて本機の電源を入れるときは、Windowsセットアップの作業が必要です。

セットアップをするときの注意

- ・ プリンタやメモリなど、周辺機器は接続しない
この作業が終わるまでは、プリンタや増設メモリなどの取り付けを絶対に行わないでください。これらの周辺機器を本機と一緒に購入した場合は、先に「**4** Windowsのセットアップ」から「**7** 使用する環境の設定と上手な使い方」の作業を行った後、周辺機器に添付のマニュアルを読んで接続や取り付けを行ってください。
- ・ 途中で電源を切らない
作業の途中では絶対に電源を切らないでください。作業の途中で、電源スイッチを操作したり電源ケーブルを引き抜いたりすると、故障の原因になります。途中で画面が止まるように見えることがあっても、セットアッププログラムは動作していることがあります。故障ではありませんので、慌てずに手順通り操作してください。

セットアップを始める前の準備

Windows 98インストールモデルをお買い上げの方は、Windowsセットアップ中に本機を使う人の名前を入力する必要があります。登録する名前を決めておいてください。

電源を入れる

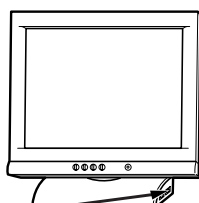
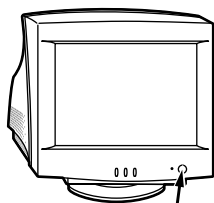
必ず**①**、**②**の順番に従って、正しく電源を入れてください。

① ディスプレイの電源を入れる

ディスプレイの電源スイッチの位置は、ディスプレイに添付のマニュアルを参照してください。

■ CRTディスプレイ(DV17D2)
の場合

■ アナログ液晶ディスプレイ
(F18S1W)の場合

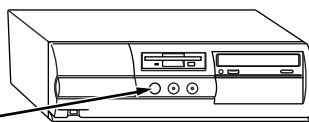
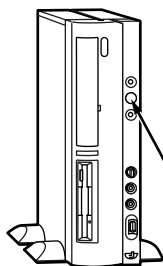


① ディスプレイの電源スイッチ

② 本体の電源を入れる

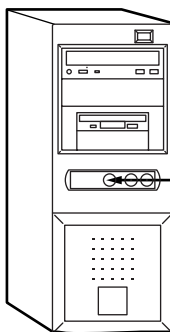
■ 省スペース型の場合

■ デスクトップ型の場合



② 本体の電源スイッチ

■ ミニタワー型の場合



② 本体の電源スイッチ

セットアップの作業手順

以降は、お買い上げいただいたオペレーティングシステムに従って、
「1.Windows Meのセットアップ」またはP.46「2.Windows 98のセットアップ」に進んでください。

1.Windows Meのセットアップ

電源を入れてからは、セットアップの作業が完了するまで、電源スイッチに絶対に手を触れないでください。セットアップが完了する前に電源を切ると、故障の原因になります。

障害が発生した場合や誤って電源スイッチを押してしまった場合は、
P.48の「セットアップ中のトラブル対策」をご覧ください。

- ① 再起動を促す画面が表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリック
- ② 「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- ③ 「使用許諾契約書に同意」の画面を確認する
内容をよくご覧の上、次に進んでください。
をクリックして続きを見る
契約書を読んで「同意します」をクリック
(同意しない場合、セットアップは続行できません)
「次へ」ボタンをクリック
- ④ FAXモデムが搭載されたモデルを使用している場合、「登録先: Microsoft」の画面が表示されたら、「いいえ、今は登録しません」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- ⑤ 「設定が完了しました」の画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリック
途中で自動的に再起動し、Windows Meのデスクトップ画面が表示されます。

以上でWindows Meのセットアップ作業は終了です。
次にP.47「電源を切る」へ進んでください。

2.Windows 98のセットアップ

電源を入れて、しばらくすると「この度は当社のパーソナルコンピュータをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。」の画面が表示されます。

これ以降は、セットアップの作業が完了するまで、電源スイッチに絶対に手を触れないでください。セットアップが完了する前に電源を切ると、故障の原因になります。

障害が発生した場合や誤って電源スイッチを押してしまった場合は、P.48の「セットアップ中のトラブル対策」をご覧ください。

- ① キーボードの【Enter】を押すと、ハードディスクのチェックが始まるので、チェックが終了したら【Enter】を押す
- ② ディスプレイの解像度を選択する画面が表示された場合は、画面の指示に従って画面の解像度を選択し、【Enter】を押す
800×600 ピクセル(ドット)の解像度を表示できるかどうかわからない場合は、640×480 ピクセル(ドット)を選択してください。
- ③ 再起動を促す画面が表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリック
- ④ 「Windows 98へようこそ」の画面が表示されたら、名前とふりがなを入力する

ここで登録した名前やふりがなは、セットアップが完了した後には変更できません。変更するには再セットアップが必要です。『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)をご覧ください。

「名前」を入力

名前を入力しないと、次の操作に進むことはできません。

「ふりがな」を入力する場合は、ふりがな欄にマウスポインタをあわせ、クリック

名前と同じように、ふりがなを入力することができます。

画面の右下にある、「次へ」ボタンをクリック

640×480 ピクセルの解像度で表示している場合、「次へ」ボタンは画面の右下に隠れています。マウスでスクロールバーを操作してください。

- ⑤「Windowsユーザー使用許諾契約」の画面を確認する
内容をよくご覧の上、次に進んでください。

をクリックして続きを見る

契約書を読んで「同意する」をクリック

(同意しない場合、セットアップは続行できません)

「次へ」ボタンをクリック

- ⑥「セットアップの完了」の画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリック
途中で自動的に再起動し、Windows 98の画面が表示されます。

これでWindows 98のセットアップの作業は終了です。
次に「電源を切る」へ進んでください。

電源を切る

次の手順で正しく電源を切ってください。

1.Windows Meの終了

- ①「スタート」ボタンをクリック

- ②「Windowsの終了」をクリック

- ③「次の中から選択してください。」の欄で「終了」を選択し、「OK」ボタンをクリック

自動的に電源が切れます。

- ④ ディスプレイの電源を切る

2.Windows 98の終了

- ①「スタート」ボタンをクリック

- ②「Windowsの終了」をクリック

- ③ 本体の電源を切る

「電源を切れる状態にする」をクリック

「OK」ボタンをクリック

自動的に電源が切れます。

④ ディスプレイの電源を切る

以上でWindowsのセットアップは完了です。

P.49「**5** お客様登録」へ進んでください。

セットアップ中のトラブル対策

セットアップの途中で、誤って電源を切ってしまった

- ・ 電源を入れて、表示される画面をチェックする
スキャンディスクが実行され、異常が発見されなかった場合は、そのままセットアップを続けてください。何か異常が発見された場合は、画面の指示に従ってください。問題が解決したら、そのままセットアップを続けてください。
「Invalid system disk...」などのエラーメッセージが表示された場合や、スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見されたことを伝えるメッセージが表示された場合は、Windowsは起動しません。Windowsを再セットアップするか、ご購入元にご相談ください。再セットアップについては、『活用ガイド 再セットアップ編』（Windows Meインストールモデル）または『活用ガイド 再セットアップ編』（Windows 98インストールモデル）をご覧ください。

セットアップの途中で電源スイッチを押してしまったら、「Windowsを終了します。よろしいですか？」というメッセージが表示された（Windows 98インストールモデルのみ）

- ・ 「キャンセル」ボタンをクリックする
元の画面に戻りますので、そのままセットアップを続けてください。

セットアップの途中でパソコンが反応しない、またはエラーメッセージが表示された

- ・ パソコンが反応しなかったり、エラーメッセージが表示された場合は、メッセージを書きとめた後、本機の電源スイッチを4秒以上押し、強制的に終了する
電源が切れた後、再度電源スイッチを入れ、上記の「電源を入れて、表示される画面をチェックする」をご覧ください。

5

お客様登録

登録には、3種類の方法があります(登録料、年会費は無料です)。

- ・ インターネットによる登録
添付の『NEC PCあんしんサポートガイド』をご覧ください。
- ・ 専用ハガキによる登録
添付の『お客様登録申込書』をご覧ください。
- ・ FAX用紙による登録
添付の『お客様登録申込書』をご覧ください。

以上でお客様登録は完了です。

次のページの「**6** マニュアルの使用方法」へ進んでください。

マニュアルの使用方法

本機に添付または『アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM』に格納されているマニュアルを紹介します。目的にあわせてお読みください。また、マニュアル類はなくさないようにご注意ください。マニュアル類をなくした場合は『活用ガイド ソフトウェア編』『トラブル解決Q&A』の「その他」の「アフターケアについて」をご覧ください。

マニュアルの使用方法

印のマニュアルは、「電子マニュアル」として「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に入っています。「電子マニュアル」の使用方法については、P.52「電子マニュアルの使用方法」をご覧ください。

- 『安全にお使いいただくために』

本機を安全にお使いいただくための情報を記載しています。使用する前に必ずお読みください。

- 『Microsoft® Windows® Meクイックスタートガイド』（Windows Meインストールモデルの場合添付）

（Windows Meのヘルプの中にある「Windows Millenium Editionを使う」でもご覧いただけます。）

Windows Meの全般的な基礎知識や基本的な操作方法を確認したいときにお読みください。

- 『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』（Windows 98インストールモデルの場合添付）

（Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』でもご覧いただけます。）

Windows 98の全般的な基礎知識や基本的な操作方法を確認したいときにお読みください。

- 『活用ガイド 再セットアップ編』（Windows Meインストールモデル）または『活用ガイド 再セットアップ編』（Windows 98インストールモデル）

本機のシステムを再セットアップするときにお読みください。

- 『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー - 型』(Windows Meインストールモデル)(Windows 98インストールモデル)
本体の各部の名称と機能、システム設定(BIOS設定)、ATコマンドについて確認したいときにお読みください。
- 『活用ガイド ソフトウェア編』(Windows Meインストールモデル)(Windows 98インストールモデル)
アプリケーションの概要と削除/追加、他のOSをセットアップするときや、トラブルが起きたときにお読みください。
- 『ハードウェア拡張ガイド 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー - 型』
本体の内部構造を知りたいときや、機能を拡張する機器の取り付けを行うときにお読みください。
- ディスプレイのユーザズマニュアル
 - ・液晶ディスプレイまたはCRTディスプレイがセットになったモデルの場合は、ディスプレイに添付されています(P.2「**1** 添付品の確認」をご覧ください)。ご利用の際に、必ずお読みください。
 - ・本体とディスプレイがセットになったモデルに添付のマニュアルには、Windows Meの設定方法が記載されていない場合があります。この場合は、Windows 98と同様の設定方法で行ってください。また、Windows Meで液晶ディスプレイのUSBハブが正常に接続されていることの確認については、下記の手順に従ってください。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック

「システム」をダブルクリック

「デバイスマネージャ」タブをクリック

「ユニバーサルシリアルコントローラ」をダブルクリック

「NEC USB Hub」が表示されていることを確認します。NEC製USB接続キーボード(バスパワーハブ付き)を利用されている場合は「NEC USB Hub」が2つ表示されますが、問題ありません。

- 選択アプリケーションのユーザーズマニュアル

モデルによって、Office 2000 Personal、Office 2000 Professional、一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000などのマニュアルが添付されています。P.2「**1 添付品の確認**」をご覧ください。ご利用の際にお読みください。

- 『NEC PCあんしんサポートガイド』

パソコンに関する相談窓口、受講施設、故障時のサービス網やNECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」について知りたいときにお読みください。

————— Microsoft関連製品の情報について —————

次のWebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用にMicrosoft関連商品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>

電子マニュアルの使用方法

電子マニュアルを使用する場合は、次の手順で起動してご覧ください。

NetPCモデル(MA66H/Z)をお使いの場合は、あらかじめネットワーク上で任意のコンピュータのCD-ROMドライブをネットワークドライブに割り当ててください。

- ❶ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブに、本機に添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」をセットする
- ❷ デスクトップ画面の「マイコンピュータ」をダブルクリックし、CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリック
- ❸ 「_manual」フォルダをダブルクリックし、「index」ファイルをダブルクリック
「Mate電子マニュアル」が表示されます。

- Windows Meインストールモデルをお使いの場合、「ヘルプとサポート」(「スタート」ボタン→「ヘルプ」をクリック)から電子マニュアルを起動することもできます。
- PDF形式の電子マニュアルをご覧いただくためには、あらかじめ本機にAcrobat Reader 4.0をインストールしておく必要があります。詳しくはMate電子マニュアル『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加「Acrobat Reader 4.0」をご覧ください。
- 必要に応じて「_manual」フォルダをハードディスクのルートディレクトリにコピーしてご利用ください。
「_manual」フォルダをハードディスクのルートディレクトリにコピーしてご利用の際、フォルダ名・ファイル名などは変更しないでください。コピー先のフォルダ名はすべて英数字の半角文字である必要があります。それ以外の文字(「デスクトップ」などの日本語)のフォルダ名にコピーすると起動することができなくなります。
- Windowsが起動しなくなったなどのトラブルが発生した場合は、電子マニュアルをご覧になることができません。そのため、あらかじめ「トラブル解決Q&A」を印刷しておくとう便利です。
- NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」では、NEC製の電子マニュアルをダウンロードできるサービスを行っております。
<http://121ware.com/e-manual/m/nx/index.html>
また、NEC PCマニュアルセンターでは、マニュアルの販売を行っています。
<http://www.pcmanual.nedox.co.jp/nedox/>

以上でマニュアルの使用方法是完了です。

次のページの「7 使用する環境の設定と上手な使い方」へ進んでください。

使用する環境の設定と上手な使い方

本機を使用する環境や運用・管理する上で便利な機能を設定します。機能の詳細や設定方法については、『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』および『活用ガイド ソフトウェア編』をご覧ください。

1. 補足説明を読む

補足説明には、本製品のご利用にあたって注意していただきたいことや、マニュアルには記載していない最新の情報について説明していますので削除しないでください。以下の方法でお読みください。

- ・「Mate電子マニュアル」を起動して「補足説明」をクリック
- ・「スタート」ボタン→「プログラム」→「補足説明」をクリック

2. アナログ液晶ディスプレイの調整

文字がにじむときや縦縞状のノイズなどがあるときは、液晶ディスプレイの調整が必要です。本機には液晶ディスプレイの画面を調整するアプリケーション(液晶ディスプレイ調整ツール)が「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に添付されています。液晶ディスプレイの調整ツールの追加は、『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」をご覧ください。追加が終わったら、アナログ液晶ディスプレイに添付のマニュアルを見ながら調整を行ってください。

3. Securityの設定

設定内容の詳細などについては、『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』PART1 本体の構成各部」の「Mateセキュリティ/マネジメント機能」をご覧ください。

① BIOS LOCK

- ・ 指紋認証を利用する

別売の指紋認証(PK-FP002)を利用することで、本体起動時にBIOSレベルで指紋によるユーザー認証を行い、不正起動やBIOSの設定変更を確実に防止します。MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sは、指紋認証を利用したBIOS LOCKができません。

- ・ スマートカードを利用する

別売のスマートカードリーダー/ライター(PK-SM001)とスマートカード(PK-SM003)を利用することで、個人認証をすることができます。Windows 98の場合にご利用になれます。MA66H/L、MA10T/S、MA80T/S、MA66H/Sは、スマートカードを利用したBIOS LOCKできません。

② パスワードの設定

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機的不正使用を防止することができます。

③ ハードディスクパスワード機能

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあって、他のパソコンに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。省スペース型、ミニタワー型の場合に利用できます。

④ ファイル暗号化(PGP)

本機には、ファイルやフォルダの暗号化/復号化機能を提供するアプリケーション(PGP)が、Windows 98インストールモデルのみ「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に添付されています。詳しくは『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加をご覧ください。

⑤ I/Oロック

フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブなどを利用できないようにします。コンピュータウイルスの侵入を防いだり、パソコンのデータを無断コピーされたり、パソコンに悪影響を与えるおそれのあるアプリケーションなどのインストールを未然に防止することができます。

⑥ 筐体ロック

内蔵部品(メモリやハードディスクドライブ)の盗難やスーパーバイザパスワード、ユーザパスワードの解除を防止するため、錠をかけることができます。

4. データのバックアップの設定

① Masty Data Backup

ハードディスクドライブが故障すると、データが一瞬にして使えなくなってしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、保護するためこまめにバックアップをとるようおすすめします。

本機にはハードディスクドライブをバックアップするアプリケーション(Masty Data Backup)が「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に添付されています。(SmallOffice向けモデル(MA66H/L)には添付されていません。)

詳しくは『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』PART1 本体の構成各部の「ハードディスクドライブ」、『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加をご覧ください。

② BIOSセットアップメニュー

「System backup reminder」を設定すると、本機起動時にバックアップを行うように警告を定期的(毎日、毎週、毎月)に出すことができます。省スペース型、ミニタワー型で 사용할 ことができます。

詳しくは『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』PART2 システム設定の「Securityの設定」をご覧ください。

5. 利用する添付アプリケーションの設定

VirusScan、Easy CD Creator、DirectCDなど

本機には、ウイルスを検査・駆除するアプリケーション(VirusScan)が「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に添付されています。

本機に添付されているVirusScanでは、新種のウイルスを検出できない場合があります。新種のウイルスに対応するため、ウイルスデータファイル(DATファイル)を更新する必要があります。

またCD-R/RWドライブが搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへデータを書き込むアプリケーション(Easy CD CreatorとDirectCD)が「Easy CD Creator™ 4 Standard/Direct CD™ 3 CD-ROM」に添付されています。

この他にも便利なアプリケーションが添付されています。

詳しくは『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加をご覧ください。

6. 運用・管理するための添付アプリケーションの設定

メンテナンスウィザード、Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)、pcAnywhere 9.2 EX、CyberAccess

本機には、スキャンディスクなどを定期的に行わせるための機能(メンテナンスウィザード)、パソコンの情報を管理する機能(Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions))、遠隔地からパソコンを操作する機能(pcAnywhere 9.2 EX)、システム管理者向けと一般ユーザ向けの利用環境を設定する機能(CyberAccess)を提供するアプリケーションが、アプリケーションCD-ROM / マニュアルCD-ROM (メンテナンスウィザードを除く)に添付されています。SmallOffice向けモデル(MA66H/L)には、Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)、pcAnywhere 9.2 EXは添付されていません。

詳しくは『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加をご覧ください。

7. 上手な使い方

① トラブルを防止するために

本機のトラブルを予防し、効率よくマネジメントするためには、電源の入れ方/切り方、メンテナンスウィザードなどいくつかのポイントがあります。詳しくは、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&Aの「トラブルを予防するには...」をご覧ください。

② 本機のお手入れ

本機を安全に、快適に使用するためには、電源ケーブルやマウスなど定期的にお手入れが必要です。詳しくは、『活用ガイド ハードウェア編 省スペース型、デスクトップ型、ミニタワー型』PART5 付録の「本機のお手入れ」をご覧ください。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNEC/パソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows MeまたはWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
- (10) 本書に記載しているWebサイトは、2000年10月現在のものです。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Active Movie、Netmeeting、Outlook、PowerPoint、Bookshelf、Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10バック/R.2」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10バック/R.2」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

VirusScanおよびPGPは、米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

pcAnywhereは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

PS/2は、IBMが所有している商標です。

Intel、Pentium、CeleronおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国および他の国々における登録商標および商標です。Intel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)は、Intel® LANDesk® Client Managerのテクノロジーを使用しています。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。

二版 2000年 11月

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。

808-877675-194-A2
